

令和元年度医療機関看護師等の同行訪問看護研修について

1. はじめに

本市では高齢者や障がい者などが住みなれた地域でいきいきと暮らせる街を目指し、在宅医療・介護の提供体制の充実に取り組んでいるところです。在宅療養者へ切れ目のない在宅医療と介護サービスを提供するためには医療機関及び在宅医療・介護関係者が互いに業務に対する理解を深めることも重要であるといわれており、平成29年度より医療機関に勤務する看護師等が訪問看護師に同行する「同行訪問看護研修」を実施しております。

令和元年度より、看護師以外の職種の受入が一部可能になりました。在宅医療や訪問看護に関心のある方々は是非ご活用ください。

2. 研修目的

医療従事者が在宅で療養されている方の実情を見ることで、医療依存度の高い方であっても、在宅復帰が可能であることを理解できる。

在宅療養生活を知ること、患者の入院早期から、在宅療養をイメージした看護計画やリハビリテーション計画を立案し、スムーズな在宅移行を目指す。

3. 対象者

- (1) 病院に勤務し、在宅医療や退院支援に関心のある医療従事者
- (2) 在宅療養に関する業務を行い、訪問看護に関心のある者

4. 研修内容

訪問看護の実際の見学

※見学が主になるため、訪問看護業務や研修先の施設概要の把握など、事前に準備をして研修に臨んでください。

5. 研修の流れ

受入訪問看護ステーションリストを参照し、研修を希望する施設へ同行訪問看護研修申込書をFAXしてください。その後、訪問看護ステーションの担当者との調整をお願いします。

※研修期間については施設毎に大きく異なっています。学生実習の受入をされている施設も多数あるため、可能な限り余裕をもってご連絡ください。

6. 実習費用

研修先の各訪問看護ステーションにご確認ください。基本的に交通費・食費・駐車場代等は自己負担となります。

7. 注意事項

※本研修は訪問看護ステーションのスタッフの皆様に多大な御協力をいただいております。下記の項目にご注意ください。

- ・訪問スケジュール都合のため、希望に添えない場合があります。
- ・訪問先は、在宅療養患者の病状等により急遽変更される場合があります。
- ・研修者本人に感染症等の症状がある場合には、キャンセルをしてください。

本研修について、熊本市ホームページに掲載しています。

熊本市ホームページ (<http://www.city.kumamoto.jp/>) から

知っていますか?在宅医療

検索

申し込みから研修への流れ

1. 研修希望者から訪問看護ステーションへ申込み

- 受入訪問看護ステーションリストより選択。
- 選択した訪問看護ステーションへ申込書をFAX提出。
- ※ 御希望の日程での受け入れができないこともありますので、あらかじめ御了承ください。

2. 研修調整

- 日程、費用、集合場所等について担当者と調整。
- ※ 訪問看護ステーションは日中連絡が取りにくい場合があります。担当者の都合が良い時間や連絡手段をあらかじめ確認してください。
- ※ 研修者は所属長へ研修希望の旨を事前に伝えておくことスムーズです。

3. 同行訪問研修 実施

- ※ 当日は、訪問看護ステーションや在宅療養患者のご都合のため、訪問先の急な変更や中止の可能性があります。

(研修終了後)

4. 研修者の申込書写しを転送（訪問看護ステーションから医療政策課へ）

5. 研修のフィードバックアンケート実施（医療政策課から研修者へ）

- 研修終了後、年度末に退院調整等の実務への変化や研修の成果について追尾アンケート調査を実施します。ご協力の程よろしくお願いたします。

6. アンケート結果のフィードバック

参考 過去の研修者を対象とした同行訪問看護研修アンケート結果

	受入訪問看護ステーション数	研修者数	アンケート回答者
平成 29 年度	16 施設	3 名	2 名
平成 30 年度	25 施設	3 名	3 名

質問 1. 研修に参加された後、業務の中で入院早期より在宅療養をイメージした看護の提供ができるようになりましたか？

できるようになった	5 名
できていない	0 名

質問 2. 希望の対象者の訪問に同行できましたか？

できた	4 名
できなかった	1 名

(できなかった理由)

- ・尿道カテーテルを使っている方の訪問同行を希望したが、対象の方が急に入院されることになったため、経管をされている一人暮らしの方へ訪問した。

質問 3. 研修前に学びたいと思っていたことを学ぶことができましたか？

できた	5 名
できなかった	0 名

(コメント)

- ・患者や家族の精神的負担を軽くしたいと考えていた。今回は独居の方の訪問だったが、不安を感じている患者にどのような説明をするのか学ぶことができた。

質問 4. 日常の業務の中で、変化したことがあれば教えて下さい

・地域包括という言葉や在宅という言葉に敏感に反応するようになった。
・退院の調整は別の部署で行っているため日常業務で具体的な変化はないが、患者の退院後の生活を意識するようになった。
・家族背景や現在受けているサービスやその内容、介護保険の有無等を意識して問診や診療の介助にあたっている。
・実際の在宅の生活を知ることによってそれを踏まえての関わりがよりスムーズに出来るようになった。
・患者だけでなく、お母様やご兄弟の生活を知ることでもできた。実際に在宅の生活を見ることで、入院中から何ができるのか考えるようになったと思う。カンファレンスでも退院後の生活を意識して情報を収集するようになった。

質問5. 同僚にこの研修を勧めたいと思いましたが？

はい	5名
いいえ	0名

質問6. 研修に参加されるにあたって、職場の理解は得られやすかったですか？また、参加しやすくするためにはどんな工夫が必要と思いますか。

・病院で勤務調整などをしていただき研修結果を報告する機会もありました。同行は1日だけなので日常業務の負担は少ないと思う。こういう事業があることを知れば、行きたいと思う人は多いと思う。
・事前に最近の訪問看護の資料を読んだりする。制度（医療と介護）の選択が難しいと思った。
・事前に訪問看護ステーションの情報を調べておくことで、よりスムーズに参加できるようになると思う。

質問7. この研修に対して、その他ご意見やご感想がございましたら教えてください。

・大変参考になりました。また指導が丁寧で分かりやすかったと思います。指導者の熱意が伝わりました。
・在宅での生活は想像でしかなかったので、実際に行ってみて勉強になりました。
・当院におかかりの外来患者数名に訪問看護ステーションの指示書を出していますが、情報の共有、意見交換について不十分だと考える。もっと、情報の共有をすべきだと考えました。訪問看護ステーション城西の方々、担当者には丁寧な指導をして頂き感謝します。ありがとうございました。
・外来業務では知り得ない患者情報も知ることができ、今後の業務に生かしていきたいと思った。
・師長から勧めていただき、研修に参加しました。今後、参加してくれる人が増えるとういと思う。